国際医療福祉大学　2013年9月6日発行　学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

vol.94
September
2013

International University of Health and Welfare

平成25年度 関連職種連携教育

関連職種連携ワーク報告会
関連職種連携実習

第17回 大田原キャンパス運動会

第2回 福岡キャンパス・大川キャンパス合同運動会

平成25年度 関連職種連携ワーク報告会 関連職種連携実習

医療福祉専門職を養成する六学部一六学科を擁し、四つの附属病院や豊富な関連施設を擁する本学の特長的なカリキュラムが「**関連職種連携教育**」である。学生のうちから「チーム医療・チームケア」を実践的に体験するこのカリキュラムが今年度も実施されている。

関連職種連携ワーク報告会

六月二九日、大田原キャンパスで「関連職種連携ワーク報告会」が行われた。「関連職種連携ワーク」はPBL（問題解決型学習）チュートリアル方式の学習を取り入れた科目であり、学科混成の一〇名程度の学生グループを編成し、「チーム医療・チームケア」のあり方について〔問題発見―情報共有―解決策討議―発表〕の過程を踏んで学習する。今年度は三年生を中心に約九〇〇名の学生が参加し、チューターとして大田原キャンパスの全学科・センター教員七八名が指導にあたった。

●午前の部の発表場面

●午後の部の発表場面

「報告会」は、午前の部と午後の部の二部構成で行われた。午前の部は、七五のグループを一〇ユニットにわけて、それぞれの教室で学習成果を発表した。最後にユニット内で投票を行い、ユニット代表チームを一チーム選出した。

午後の部は、ユニット代表チームが集まり再度発表を行い、その内容を審査して、学長賞や優秀賞を選出した。

学長賞

チーム57 HAPPY WEDDING

筋萎縮性側索硬化症と診断されたIさん（五九歳男性）が、娘の結婚式でバージンロードを歩き、スピーチできるようにするための職種間連携とは。

優秀賞

チーム23 家族と食事！

食道がんと診断され手術を予定しているHさん（五六歳男性）が、術後、自宅に帰って家族と食事ができるようにするための職種間連携とは。

チーム62 夏祭りに参加しよう！

脳性まひ（痙直型四肢まひ）のめいちゃん（六歳女児）が、療育センターで開催される夏祭りに参加できるようにするための職種間連携とは。

その他のユニット代表チーム

チーム11 特別授業参加に向けた職種間連携
（六歳女児／発達障害・脳性まひ）

チーム37 脊髄損傷、四肢まひ患者がその人らしく生きるために！
（五六歳男性／転落により四肢まひ・呼吸困難）

チーム43 自宅復帰までのアプローチ ～変形性膝関節症の手術・血糖コントロールに向けての入院～
（七〇歳女性／両側変形性膝関節症・糖尿病）

チーム74 旅行に行こう！
（五四歳男性／脊髄小脳変性症）

チーム83 アルツハイマー病の進行状況に応じた各職種の連携
（七二歳女性／アルツハイマー病・糖尿病）

チーム93 脳性まひ児の小旅行を目標とした関連職種連携ワーク
（六歳女児／脳性まひ・気管支喘息・てんかん）

チーム93 ハッピーウエディング ～娘をよろしく頼む～
（五九歳男性／筋萎縮性側索硬化症）

関連職種連携実習

七月二七日～八月二日、「関連職種連携実習」が行われた。これは「関連職種連携教育」の最終ステップであり、学科横断チームで実際の病院や福祉施設で五日間の実習を行った。今年は、一六四人の学生が一八のチームに分かれ、本学の附属・関連をはじめ一五の施設に出向いて実習を行った。

実習先では、まず他職種の現場を訪れ、他職種への理解を深めながら、チームが担当する実際の患者さんや利用者の情報を収集する。これに基づいてアセスメントを行い、結果をサマリーにまとめた後、治療計画やサービス計画を作成した。

最終日には、カンファレンスでこれを発表し、現場の医師や専門職から意見や質問を受けることにより計画案はより現実的なものとなった。これがまさしく本物の「職種間連携」の体験である。

これを受けて、八月三一日には大田原キャンパスで「報告会」が実施され、情報共有が図られた。

指導教員が加わりカンファレンスに向け最終チェック。
このチームが担当したのは、小脳梗塞が認められる50歳代男性の高校教師。自分で健康管理をし、脳梗塞、脳出血を予防しながら、再び教壇に立つことを目標に掲げている。
（国際医療福祉大学病院にて）

カンファレンスで発表後、現場指導者から質問を受ける。
このチームが担当したのは、人工股関節全置換術を受けた70歳代女性。家業や家事で可能な役割を続けることを希望している。（国際医療福祉大学病院にて）

（大田原キャンパス　広報室）

IUHW International University of Health and Welfare
vol.94 September 2013

CONTENTS

2.3 特集1 関連職種連携教育
関連職種連携ワーク報告会／関連職種連携実習

4.5 6 特集2 運動会 ●大田原キャンパス ●福岡キャンパス・大川キャンパス合同

キャンパスレポート
7 第17回 福岡キャンパス
第31回 大川キャンパス
8 第27回 小田原キャンパス
9 第 1 回 大学院
第 9 回 塩谷看護専門学校

トピックス
10 「中嶋宏先生を偲ぶ会」のご報告／高木理事長が「介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰」を受賞／本学同窓会「マロニエ会」幹事会・総会を開催
11 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式／IUHW奨学金授与式／国際医療福祉大学年間成績優秀賞表彰式／「旧赤坂小学校跡地・周辺地区活用事業」の推進事業候補者に本学が選ばれました
12 和田秀樹大学院教授が東北地区高等学校PTA連合会山形大会で特別講演／看護学科（大田原キャンパス）新入生オリエンテーションツアー／看護学科（大田原キャンパス）「保護者のための就活講座」2013／視機能療法学科「同行援護従業者」養成研修はじまる／視機能療法学科 元培科技大学で国際学生学術会議に参加
13 医療福祉学部フォーラムに200人／大田原キャンパス「将棋で養う社会力」を開講／平成24年度学校法人国際医療福祉大学決算報告

施設インフォメーション
14 国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院
15 国際医療福祉大学三田病院
16 国際医療福祉大学熱海病院／山王病院
17 化学療法研究所附属病院／高木病院／栃の実荘

18 卒業生通信・留学生通信
19 大学院／医療福祉ｅチャンネル

20 学生投稿ページ

北島学長の名前を冠した「Kitajima Prize」を国際消化器外科学会が創設

本学の北島政樹学長が、万国外科学会の名誉会員に選ばれた。また、同学会の構成学会である国際消化器外科学会が、北島学長のこれまでの同学会への貢献や多くの国際的な学術的業績を称え、永く後世に語り継ぐことを目的として、「Kitajima Prize」を創設することを決めた。北島学長は、2007年に万国外科学会会長、2011年に国際消化器外科学会会長を務め、両学会を成功裏に収めている。

8月25日よりフィンランドのヘルシンキで開催される万国外科学会において、名誉会員の表彰と、優れた業績を残した外科医に初の「Kitajima Prize」の顕彰が行われる。

●看護学科

●薬学科

●言語聴覚学科

●作業療法学科

●視機能療法学科

●医療福祉・マネジメント学科の与一踊り
（8/2〜3の大田原市与一まつりの流し踊りで先頭をつとめた）

●理学療法学科

●放射線・情報科学科

2013 May 25
大田原キャンパス

17th 運動会

5月25日、大田原キャンパスで17回目の運動会が開催された。曇天だが雨の心配はなく風もほとんどないという、運動会には絶好の日和になった。総合優勝は理学療法学科の連覇が続いたが、途中まで視機能療法学科が迫る展開となり、終盤の競技は例年以上に熱が入った。恒例の応援合戦も看護学科の連覇となった。

実行委員長は赤間真介さん
（医療福祉・マネジメント学科2年）

撮影協力は写真部

2013 May 18

福岡キャンパス
大川キャンパス

2th 運動会

5月18日、今年で2回目となる福岡キャンパス・大川キャンパスの「合同運動会」が大川キャンパスのグラウンドで開催された。福岡保健医療学部に医学検査学科が加わって初めての運動会で、総勢1,000名を超える学生が集結し、8チーム対抗で例年以上の盛り上がりとなった。

●合同運動会選手宣誓!

応援合戦優勝チームは福岡看護学部1年Bチーム

●ラジオ体操、ひとりだけ向きが違う?

第17回 キャンパスレポート 福岡

臨地実習に向けて、ただいま準備中

福岡看護学部では、九月二日から二年次生の二週間の看護過程論実習が始まる。約半年ぶりの臨地実習である。また、三年次生も夏休みが終わると、各看護学領域での臨地実習が始まる。四年次前期までのロングランである。臨地実習を前に、看護技術の演習をしている学生たちに実習への思いを聞いてみた。

「受け持ち患者さんとうまく話せるか心配」、「患者さんの状態に合った看護技術ができるか心配」、「看護過程の展開ができるか不安」、「実習記録を書くのが苦手」。出てくるのは「心配」や「不安」ばかりである。

看護の場面は個別的で複雑で、ダイナミックであり、講義や演習で学んだ知識・技術をそのまま使えることは少ない。それぞれの患者さんや利用者の方々の条件や状況を深く洞察して、現実に合わせて適応できる柔軟な応用力や判断力が必要とされる。また、臨地実習では、さまざまな人と対人関係を築くことも重要な課題である。特に看護の対象者との援助的人間関係を形成することは看護実践に求められる重要な能力である。実際に患者さんや利用者の方々と関わることは臨地実習でしかできない。その人の人権や価値観について理解を含め、人間の尊厳を重視する倫理的態度を学ぶ貴重な機会でもある。

学生たちは、臨地実習での学びの重要性と学ぶ過程での厳しさを思い、不安に駆られるのであろう。しかし、臨地実習は『看護』について「知る」、「わかる」段階から、「使う」、「実践できる」段階に到達するために看護教育においては不可欠な学習過程である。自分が体験したことを論理的に表現し意味づけを行うことで、看護観を形成するとともに自分の課題を見出し、さらなる成長につながる。私は看護教員として学生を見てきた経験から、この臨地実習において、看護専門職者として成長する基盤が形成されればかりでなく、ひとりの人間としても大きく成長する機会になっていることを知っている。

基礎知識の再確認や看護技術演習など自分ができる準備を行い、臆することなく多くの人々と出会い、見て学び、聴いて学び、深く思考して、実践して学んでほしい。『最高の準備は最高の結果をもたらす』というではないか。

（臨地実習委員会委員長　中嶋恵美子）

●洗髪の看護技術演習

●バイタルサイン測定の練習

第31回 キャンパスレポート 大川

大学・専門学校からの実習生、海外からの研修生の宿泊施設「文化交流ドミトリー（仮称）」着工

七月三日、国際医療福祉大学福岡保健医療学部（大川キャンパス）に隣接して建てられる、国際医療福祉大学・高邦会グループの宿泊施設「文化交流ドミトリー（仮称）」の起工式が行われた。

この施設は、病院実習で大川市を訪れる本グループの大学生・専門学校生や、国際医療福祉大学が仁済大学（韓国）、建陽大学（同）をはじめとする海外の提携大学から毎年一〇〇人規模で受け入れている短期研修生の宿泊を目的に建設されるもので、鉄筋コンクリート五階建てとなる。客室六二室のほか、ミーティングルームや食堂などを完備し、一般客の宿泊も受け入れる。

高木病院新棟の起工式を兼ねた式には、鳩山二郎次期大川市長（七月三日時点）、木下修二大川市副市長（同）、大川商工会や地域の各団体の皆様など、来賓、関係者約一〇〇人が参列した。

本グループの高木邦格理事長が、今後起工予定の「おおかわ地域交流プラザ（仮称）」とともに「大川の発展に役立つ施設にしたい」と挨拶した。

文化交流ドミトリー（仮称）は、平成二六年春の竣工予定。この施設の完成により、実習で大川市を訪れる学生の生活環境がより整備されるほか、地域の活性化が期待されている。

（九州広報室　帆足リエ）

●文化交流ドミトリー（仮称）の外観イメージ

●高木理事長による挨拶

●金出英夫副学長による刈初めの儀

第27回
キャンパスレポート
小田原

全日本大学フットサル大会2013神奈川県大会優勝!!

六月二六日、横浜市立大学体育館で開催された「全日本大学フットサル2013神奈川県大会」に本キャンパスのフットサル部が出場し、決勝戦で横浜市立大学と対戦。トータルスコア3対2で勝利し、「全日本大学フットサル大会関東大会」へ神奈川県代表としての出場権を勝ち取った。

横浜市立大学は昨年全国大会に出場した強豪校で、当部は昨年の神奈川県大会の対戦では1対3と敗戦した。部創設時は、横浜市立大学に大敗を喫することが多かったが、近年は横浜市立大学との勝敗数がほぼ同じと、徐々に力をつけ、今大会に臨んだ。

前半は押され、0対2で折り返すが、このままでは終わらない。後半は3対0と巻き返し、トータルスコア3対2と逆転勝利を収めた。

七月二〇日、春日部市立庄和体育館で関東大会が開催された。初戦の相手は、茨城県代表の筑波大学。筑波大学は関東大学フットサルリーグに所属し、昨年はこの大会でベスト4の実績を残している。

二分と短い試合形式で行われるノックダウン方式。持てるすべての力を出したが、惜しくもトータルスコア1対3で敗れた。代表の安藤和輝さん（理学療法学科三年）は、「攻め込まなくてはいけない時間帯で攻めきれず、点につなげられなかったことが敗因」と語る。

徐々に力をつけているフットサル部。来年こそは全国大会の切符を手にしてもらいたい。

（学務課　下田岳史）

学友会の積極的な活動

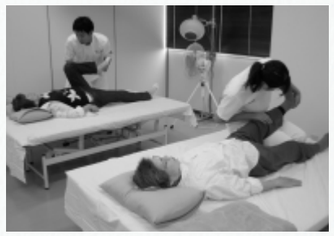
今年度の学友会執行部役員は一七名。四月に実施した「学友会新入生歓迎会」から始まり、フレッシュマンキャンプのサポート、学生アンケート、各行事、部・サークルのサポート等、学生自治会の「骨格作り」が今年度の目標。学生の声を大学に届け、より有意義な学生生活が送れるよう、毎週定例会を開き積極的に活動している。今後小田原キャンパスの学生の核としての役割を担ってくれることを期待する。

（学務課　佐藤浩子）

市民公開講座

六月一日、市民公開講座を開催した。今年のテーマは、「測ろう！心と身体の健康・わくわく測定二〇一三-」。今年も一年生、二年生全員で体験型の講座を準備した。特に一年生は、市民公開講座前の恒例となった「接遇研修」を全員で受講し、医療人としてのマナーや心構えについて学び、市民公開講座当日を迎えた。

今年は全部で一七講座を設けた。講座は、大きく三つに分類できる。血圧、骨密度や血管年齢などを測定する「身体測定」、瞬発力や筋力などを測定する「体力測定」、ストレスや脳機能を測定する「心の測定」。他にも、小田原保健福祉事務所との合同企画「がん検診啓発コーナー」や、熱海病院の看護師や栄養士による「健康相談コーナー」も設けた。



今年度の来場者数は二八二名と、過去二番目の多さ。また、地元テレビ局が取材し、夕方のニュースで取り上げられた。

来場者からは、「学生の態度がすばらしい」、「来年も必ず来ます」などといった声をいただいた。

ときめき国際学校

小田原市と友好都市の関係にあるオーストラリアのマンリー市。両市は、相互交流事業として「ときめき国際学校」を行っている。この事業のひとつとして、マンリー市の中・高校生が小田原市でホームステイをしながら、小田原市の中・高校生と日本文化体験を通じて交流するプログラムがあり、本学とも交流が図られている。本学の学生にとっては、生きた英語に触れる絶好の機会であり、英語の学習成果を確認する貴重な時間となる。

七月一三日、マンリー市の中・高校生一六名を迎えることになり、三学科の特徴を活かした体験を企画し、看護学科は妊婦体験と高齢者体験を、理学療法学科は三次元動作解析を、作業療法学科は日本の伝統的な遊び（紙ひこうき、紙ずもうなど）を準備した。

最初は「英語に不安を感じる」と言っていた学生たちだったが、準備した体験企画を通して、マンリー市の中・高校生たちと英語での会話を笑顔で楽しんでいたのが印象的だった。

（総務課　高久晃）

第1回
キャンパスレポート
大学院

平成二五年度の学内進学者は三九人、累計では三九〇人が学内から大学院に進学

平成二五年度の本学大学院入学者の状況がまとめられた。それによると、大学院医療福祉学研究科修士課程への入学者は一八〇人、このうち三九人が学内からの進学で、入学者の二一・七%を占める。平成一一年度からの累計では、修士課程入学者の総数二二三〇人に対し、学内からの進学者は三九〇人（一七・五%）に達する。社会人が通いやすい本学大学院は、それだけに学外からの入学者が多いともいえるが、学部での学びを発展させるには学内進学の方が有利なことは間違いない。就職と同時に大学院にもチャレンジしてはどうだろうか。

九月二三日(月・祝)、大学院進学説明会(オープンキャンパス)を実施

大学院東京青山キャンパスをメイン会場とし、九月二三日に大学院全体としては初めてとなる進学説明会(オープンキャンパス)を実施する。これまでも分野・領域ごとの説明会は行われてきたが、それでは志望する分野・領域が明確でないと参加しにくい。本学大学院にはどのような分野があるのかをもっと幅広く知ってもらうために企画した。当日は祝日だが大学院は授業日にあたるため、希望者は説明会終了後に体験授業として実際の講義を聴講することも可能だ。

また今回、初めての制作となる大学院の紹介ビデオも上映する。分野の内容や院生の様子がよくわかるため、当日の上映後は大学院のホームページでも見られるようにする。

東京青山キャンパスには大学院のみが置かれているため、学部生にはなじみがないかもしれないが、大学院に興味がある学生はこの機会をぜひ活用してほしい。

●オープンキャンパスに向けてビデオ撮影

9/23進学説明会（オープンキャンパス）

14：00～ 大学院長挨拶、教授陣紹介
大学院紹介
（紹介ビデオの上映等）

15：00～ シンポジウム
「大学院で何を学ぶのか」
（大熊由紀子教授及び修了生）

16：30～ 個別進学相談会
（各分野にわかれての進学相談。入試や奨学金、留学生に対する相談等）

18：00～ 体験聴講（希望者のみ）
「保健医療福祉政策論」
中村秀一教授

（福祉支援工学分野　准教授　東畠弘子）

第9回
キャンパスレポート
塩谷看護専門学校

各学年の近況報告

平成二五年度は学生総数一二五名でスタートした。

新入生は四二名。四月に自治会主催の歓迎会を受け、先輩や教職員との交流を図った。また、那須セミナーハウスでの合宿でお互いの交流を深めた。六月の国際医療福祉大学塩谷病院の病院見学には、初めて実習着を身につけ緊張した面持ちで臨んだ。病院組織や看護部組織についての講話の後、病院内を見学。病棟で看護師の業務を垣間見て、看護学生としての自覚を新たにしたようだ。また、第一回看護技術試験「リネンチェンジ」を実施した。臥床している患者様に対しての技術援助で、演習時と異なり、患者様への声かけや反応を確認しながら実施するため、緊張し汗を流して取り組んでいた。患者様のためになすべきことができているかという視点で、教員も厳しい目で採点した。夏休みに入る直前までに合格をめざして、放課後練習に励んでいる。

二年生は四四名。新入生が入り先輩としての自覚が芽生えたようで、一年次に心配していた学生たちも落ち着いて勉学に励んでいる。二年次は学生生活を一番謳歌できる時期である。自治会長、学校祭委員長などイベントのリーダーを務め、企画・運営の中心となって各学年をとりまとめている。教科は各分野の看護学方法論について学んでいる。また、国試対策として『基礎的知識（必修問題）の定着』を目標に自己学習を進めている。

三年生は三九名。就職活動・国試対策がメインである。

しかし、現在は五月から始まった領域別実習を乗り切ることが最大の課題であり、他のことは手につかない様子である。就職は、半数以上が関連施設を希望しているためか焦った様子は見られない。国試対策は五月から業者模試を実施。三月の模試結果を含めて成績不振者には恒例の校長面接を行い、学習習慣を身につけるよう働きかけている。今年の国家試験合格率一〇〇%は、三年生や私たち教職員にも大きなプレッシャーであり励みでもある。来年も合格率一〇〇%をめざし、学生と教職員が一丸となって努力していくことを誓い、活動している。

●新入生42名を迎えた新入生歓迎会

（副学校長　柴田由利子）

「中嶋宏先生を偲ぶ会」のご報告

二〇一三年一月に逝去された中嶋宏先生を偲ぶ会が六月一五日、ホテルオークラ東京で東京医科大学と本学の共催でしめやかに執り行われた。

中嶋先生はアジア人で初めて、WHO（世界保健機関）事務局長を務められた。その後、一九九八年～二〇〇一年までは本学の国際医療福祉総合研究所の初代所長を務められた。

約二五〇名が集まった会場には、真っ白な祭壇に中嶋先生のご功績を表す勲一等瑞宝章（瑞宝大綬章）や従三位、フランスのレジオン・ドヌール勲章などが飾られた。式ではマーガレット・チャンWHO事務局長のメッセージや、来賓の田村憲久厚生労働大臣、横倉義武日本医師会長による挨拶があった。

最後に、この日のために来日されたマーサ夫人から会への謝辞と、中嶋先生との思い出が語られた。

●中嶋先生の遺影の前でマーサ夫人を囲んで

（東京事務所　広報部）

全老健全国大会で高木理事長が「介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰」を受賞

七月二四日からの三日間、社団法人全国老人保健施設協会が主催する第二四回全国介護老人保健施設大会石川in金沢」が約四八〇〇名の参加者を得て、盛大に開催された。

その中で本学の高木邦格理事長が、これまでの全国老人保健施設協会での多大なる貢献を評価され、「介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰」を受賞された。また、グループの老健施設「マロニエ苑」、「水郷苑」も大会に参加した。マロニエ苑の横地正之施設長が認知症セッションで座長を務められたほか、リハビリ・看護・介護職員七名が、日頃の臨床業務から着想を得た研究内容について演題発表を行い、多くの講演やセッションに参加した。

現在、老健施設は国が推進する地域包括ケアシステムの中で、医療と介護をつなぐ施設として大きな役割を期待されている。施設では、今回の大会参加で得たものを在宅復帰支援機能の強化や提供するサービスの質向上につなげて、より良い施設運営をめざしていく。

●受賞時には会場から温かい拍手がおくられた

（東京事務所　医療福祉管理部）

本学同窓会「マロニエ会」幹事会・総会を開催

七月六日、大田原キャンパスで、マロニエ会の幹事会・総会が開催された。

幹事会

幹事会は上田清史代表幹事（理学療法学科一期生）の挨拶で始まり、平成二四年度事業報告・決算報告と続き、本学二〇周年記念事業の支援を含めた平成二五年度事業計画が承認された。

●幹事会で挨拶する上田清史代表幹事

総会

引き続き、一〇九名が出席して総会が開催された。上田代表幹事は、医療福祉現場で人と人のつながりがますます重要となる今日、一四〇〇〇人を超えた本学卒業生の絆を強めることの重要性を強調し、「同窓会が卒業生の親睦の場、研鑽の場となるばかりでなく、在学生に対する支援の場となることを目標にする」と述べた。続く挨拶のなかで、北島政樹学長が、「大学を支えるのは卒業生。職場でのネットワークへの意識をさらに高めてほしい」と述べ、金澤一郎大学院長が、「情緒的な結びつきを強める意味でも、本学の誇るべき校歌をもっといろいろな場面で歌いたい」と提唱した。杉原素子副大学院長による記念講演『医療福祉サービスと専門職の役割』では、根拠に基づいた適切なケアの提供、地域包括ケアへの各専門職の参加などが語られた。

●総会で講演する杉原素子副大学院長

懇親会

総会終了後には懇親会が開催され、佐藤禎一学事顧問、桃井眞里子副学長の挨拶のあと、沼尾嘉人副代表幹事（医療経営管理学科＝現、医療福祉・マネジメント学科＝一期生）による乾杯の音頭で懇談が始まった。各学科長の紹介、各学科代表幹事の挨拶などで和やかに進行し、丸山仁司副学長の一本締めで閉会した。

●懇親会で乾杯の音頭をとる沼尾嘉人副代表幹事

（大田原キャンパス　広報室　金井雅之）

第一七回 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式

六月六日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で、鈴木久仁社長、真鍋洋取締役副社長執行役員、土屋光弘取締役専務執行役員や、本学の高木邦格理事長、北島政樹学長、佐藤禎一学事顧問らが列席し、奨学生認証式が行われた。

今年度は一〇名が選ばれ、一九九七年の制度創設からの総数は一五〇名となった。鈴木社長と高木理事長より、「高い知識・技術を習得して社会的使命を果たしてください」とエールが送られた。

●緊張した表情で並ぶ奨学生（前列）

奨学生（新規採用者）

■保健医療学部
看護学科（二年）　大場美奈
理学療法学科（二年）　易晶晶
作業療法学科（二年）　渡辺愛弥子
視機能療法学科（二年）　及川忍
放射線・情報科学科（二年）　定光由紀

■医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科（二年）　蒲生美里

■薬学部
薬学科（二年）　矢野友里恵

■小田原保健医療学部
作業療法学科（二年）　瀧澤希

■福岡看護学部
看護学科（二年）　宗ちとせ

■福岡保健医療学部
作業療法学科（二年）　久永知佳

（東京事務所　広報部）

2013 IUHW奨学金授与式

六月一八日、国際医療福祉大学三田病院で、駐日ミャンマー大使館のキン・マウン・ティン特命全権大使ご夫妻、駐日カンボジア大使館のシム・ヴィリャ一等書記官ご夫妻、アジア婦人友好会の高村治子会長、芝英子理事をお招きし、IUHW奨学金授与式が行われた。

アジアにおける医療福祉分野の人材育成に寄与することを目的に、アジア婦人友好会、アジア各国の駐日大使館の推薦に基づき、学費から住宅費までのフルサポートを行う制度で、二〇〇一年の制度創設から延べ一五名に授与されてきた。

奨学生は「学んだことを持ち帰り、母国の医療福祉の発展に貢献したい」などと抱負を述べた。高村会長の謝辞に続き、キン特命全権大使、奨学生の実兄のシム一等書記官から両国関係のさらなる発展への期待、人材育成の重要性が語られた。

●IUHW奨学生と来賓の皆様

今年度奨学生

●アウン・ティハさん（ミャンマー）
医療福祉学研究科博士課程　医療福祉国際協力学分野

●ニョ・ミィ・スウェさん（ミャンマー）
薬学研究科博士課程　医療・生命薬学専攻

●ヌエ・ニィ・ティンさん（ミャンマー）
医療福祉学研究科修士課程　理学療法学分野

●ソピアップニカー・シムさん（カンボジア）
医療福祉学研究科修士課程　医療経営管理分野

（東京事務所　総務企画部　加瀬文彦）

平成25年度 国際医療福祉大学 年間成績優秀賞表彰式

平成二五年度年間成績優秀賞の表彰式が各キャンパスで行われ、受賞者に表彰状が授与された。副賞として授業料が最大五〇%減免される。

■保健医療学部（六月一三日実施）
看護学科
二年 堀江和沙、三年 津久井沙耶香、四年 齋藤瑞穂
理学療法学科
二年 船橋史織、三年 佐藤ゆりえ、四年 池田安香音
作業療法学科
二年 髙嶋千尋、三年 米田歩、四年 倉澤真奈
言語聴覚学科
二年 對馬結、三年 粟野菜、四年 下田里紗
視機能療法学科
二年 玉坂奈津美、三年 野上豪志、四年 平山真奈美
放射線・情報科学科
二年 稲月椋、三年 金子隼汰、四年 髙見光咲

■医療福祉学部（六月一三日実施）
医療福祉・マネジメント学科
二年 近藤美佳、三年 野木一輝、四年 小暮真未

■薬学部（六月一三日実施）
薬学科
二年 金子修、三年 鈴木沙季、四年 藤田めぐみ
五年 手塚千裕、六年 根来加菜子

■小田原保健医療学部（七月四日実施）
看護学科
二年 本田麻里菜、三年 鈴木昌子、四年 佐藤美美
理学療法学科
二年 大松峻也、三年 熊谷公美、四年 島田真衣
作業療法学科
二年 長嶋早紀、三年 井水美結、四年 安田すみれ

■福岡看護学部（六月二九日実施）
看護学科
二年 鶴川彩、三年 西山明日香、四年 吉村小夜子

■福岡保健医療学部（六月二二日実施）
理学療法学科
二年 近藤遥奈、三年 武田津香紗、四年 江﨑太宣
作業療法学科
二年 金子美潮、三年 梅津友加里、四年 坂井和美
言語聴覚学科
二年 中村優利、三年 二宮菜帆、四年 田口智子

（大田原キャンパス　学生課　松本典子）

「旧赤坂小学校跡地・周辺地区活用事業」の推進事業候補者に本学が選ばれました

東京都港区が、旧区立赤坂小学校の跡地に大学を誘致するためにプロポーザル方式で公募していた「旧赤坂小学校跡地・周辺地区活用事業」の推進事業候補者に本学が選ばれた。

今後、首都圏を中心に高齢化が急激に進展することが予測され、また本学が医療福祉の総合大学である強みを生かし、本事業で「看護学部の新設」、災害看護・災害リハビリテーション研究等の充実をめざす「大学院の拡充」、保育園・病児保育施設の新設、赤坂健康相談室等の「生活支援施設の設置」、「地域交流施設」として千人規模を収容する「国際医療福祉大学赤坂ホール」や、地域の皆様にも利用していただける「カフェ&ストア」や「図書館」の新設などを予定している。

上記の取り組みを通じて、港区・赤坂地域の発展に寄与し、急激に高齢化が進みつつある都市部に対して貢献するとともに、本学の建学の精神である『「共に生きる社会」の実現』をめざしていく。

●外観イメージ

（東京事務所　広報部）

和田秀樹大学院教授が東北地区高等学校PTA連合会山形大会で特別講演

七月一二日、山形県総合スポーツセンターで、本学大学院の和田秀樹教授による講演「二一世紀に生き残る力をつける勉強法と学習習慣」が開催された。東北地区高等学校PTA連合会山形大会の特別講演として招待されたもので、PTA役員約一七〇〇名が熱心に耳を傾けた。（大田原キャンパス　広報室）

大田原キャンパス　看護学科

新入生オリエンテーションツアー

四月一三日、恒例の看護学科の新入生オリエンテーションツアーを実施した。スムーズに大学生活に慣れることを目的に上級生にも参加してもらい、大学生活のアドバイスをもらえる絶好の機会にしたいと担当者で計画を練った。

グループにわかれての自己紹介に始まり、ゲーム、工作、運動とさまざまな催しが行われ、初の試みとして一年生や上級生、先生方で昼食の「カレー作り」に挑戦した。厨房で野菜を切り、中庭で材料を炒め、煮込む作業一つひとつに歓声が上がり、ワイワイ言いながらの楽しい時間となった。完成したカレーはおかわり続出で、食事中の会話も弾み、大いに親睦が図れた。

（看護学科　講師　髙久弥生）

●福島学科長を囲んで「ハイピース!」

「保護者のための就活講座」二〇一三

六月一五日に三～四年生の保護者四八名を対象に就活講座を実施した。参加動機は「娘の希望している病院を自分の目で見たい」「子どもの就職先の参考にしたい」などで関心の高さが伺える。今回が初めての開催であり、早期離職やリアリティショックなど新人看護師を取り巻く社会的な状況を理解してもらい、看護学士としての就活支援を共に考えることがねらいである。

午前中は、教員による講義や卒業生の就活体験談、本学関連病院看護部長による病院紹介、教育師長による教育体制の説明等を行った。午後は、希望者が国際医療福祉大学病院や塩谷病院を見学した。

参加者からは、「充実した見学会で大変満足。今後も、続けていただきたい」と感想が寄せられた。

（看護学科　教授　村松由紀）

●国際医療福祉大学塩谷病院を見学する4年生松本知香さんご一家

大田原キャンパス　視機能療法学科

「同行援護従業者」養成研修はじまる

今年度、本学は栃木県より同行援護従業者養成研修（一般課程）の事業者として指定を受け、学科の専門科目を履修することで、在学中に同行援護従業者資格が取得できるようになった。「同行援護」とは、障害者総合支援法に基づく社会福祉サービスのひとつで、視覚に障害を持つ方々が安心して安全に外出できるようにガイドヘルプと移動に必要な情報を提供するサービスである。視力の低下や視野が狭くなるなど視覚障害が進行すると、ひとりでの外出が困難になるため生活行動範囲が狭まり、生活意欲が低下しやすくなる。同行援護従業者による支援は社会参加の機会を増やし、生活の質を維持していくことにつながる。超高齢社会を迎え、今後この資格が他学科の学生や一般の方々にも広く認知され、視覚に障害を持つ方々の生活がより充実したものになることが望まれる。視能訓練士は病院内の眼科検査や訓練に従事するだけではなく、視覚に障害を持つ方々のケアに関する十分な知識と技能を身につけ、福祉分野にも積極的に関わっていくことが今後重要になっていくと思われる。

（視機能療法学科　助教　望月浩志）

●病院のエスカレータを用いた実習

元培科技大学で国際学生学術会議に参加

三月一九～二一日、本学協定校の台湾元培科技大学で国際学生学術会議が開催された。日本、韓国、ロシア、ドイツ、中国本土などの一四大学から四六名の学生が参加し、医療・福祉・保健分野の研究成果を発表した。本学からは視機能療法学科四年の平山真奈美さんと新井田孝裕学科長が参加。平山さんは保育園・幼稚園での実習で毎年行っている視機能スクリーニングの成果とその意義について英語で発表した。歓迎レセプションでは、元培科技大学の蔡雅賢執行理事、黄暁令国際部長など会議出席者・関係者全員が参加し親睦を深め、二月まで短期留学生として本学の視機能療法学科で学んだ洪俊達さん、謝仲威さんと再会した。

（大田原キャンパス　国際室　藤原志保）

●学術会議発表者との記念写真（右から新井田学科長、平山さん）

大田原キャンパス　医療福祉・マネジメント学科

医療福祉学部フォーラムに二〇〇人

六月二日、医療福祉学部フォーラム「これからの医療福祉に求められる人材育成」が宇都宮で開催され、受験生を中心に二〇〇人が来場した。

丸山仁司副学長・医療福祉学部長の主催者挨拶に続き、第一部では、金澤一郎大学院長が「脳の不思議な世界」と題し特別講演。脳の深遠な特性が語られた。第二部のパネルディスカッションでは、足利赤十字病院の小松本悟院長、栃木県看護協会の河野順子会長、下野新聞の鷹箸浩報道センター長、本学部卒業生で社会福祉法人同愛会施設長の菊地月香さん（一期生）、済生会宇都宮病院総務課勤務の柴田麻記子さん（九期生）が登壇。山本康弘副学科長をコーディネーターに、「医療、福祉、マネジメントのわかる専門職の重要性」について討議した。

第三部は、本学部卒業生でシンガーソングライターのえりのあさんと小林雅彦学科長によるトークライブ。学生時代の話や歌を通じて福祉・介護職のやりがいについて語った。

（医療福祉・マネジメント学科　講師　中田健吾）

●医療・福祉・マネジメントのわかる専門職の重要性が議論されたパネルディスカッション

大田原キャンパス

「将棋で養う社会力」を開講

前期の総合科目（一年次）として『将棋で養う社会力』を開講した。「社会力」とは、判断力・決断力・知力を含む「サイエンス」と、感情をコントロールする力・礼節力・コミュニケーション力・伝統を理解し尊敬する心を含む「アート」が統合されたもの。大学での将棋の講座は、一般教養科目としては全国初である。

私は、日本将棋連盟の普及指導員の資格を持つアマ七段であるが、一〇〇人以上の学生に教授するのは初めて。工夫の一つとして、五月二九日と七月一七日に日本将棋連盟普及担当理事の初代竜王島朗九段と普及担当女流棋士の鈴木環那女流二段にお越しいただいた。二人の掛け合いによる将棋技術講座、島九段の指導対局（写真）、鈴木女流二段のリレー将棋解説など学生にしっかり考えさせる指導をいただき、全く将棋を知らない学生が、一五回の授業で将棋を楽しむことができるようになった。大田原市は八年連続で王将戦を誘致している将棋の町である。地元の大学として将棋の普及に寄与できたと思う。

（基礎医学研究センター　教授　北村義浩）

●島九段の指導対局

平成24年度

学校法人国際医療福祉大学決算報告

帰属収入においては、福岡看護学部の学年進行等により、学納金収入が前年比二億円以上増加し、また、四附属病院の医療収入も前年比三一億円以上の増収となり、補助金及びその他の収入を加え、帰属収入総額は前年比約三六億円増加の四七三億円となった。

これらの結果、学校法人全体での帰属収支差額は、前年比で八億円以上増加の約三五億円の収入超過となった。

現預金残高は二〇八億円、総資産額は一〇三二億円となり、また、自己資本は六三三億円、基本金は七二四億円に達し、安定的な財務体質を維持している。

（経理部長　竹延智雅）

消費収支計算書

本年度（自　平成24年4月1日　至　平成25年3月31日）
前年度（自　平成23年4月1日　至　平成24年3月31日）

学校法人国際医療福祉大学　（単位:千円）

摘要 / 科目	前年度	本年度	対前年度増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	9,241,464	9,458,581	217,117
手数料	221,401	241,185	19,784
寄付金	397,808	547,363	149,555
補助金	1,674,389	1,996,107	321,718
資産運用収入	94,839	110,072	15,233
資産売却収入	0	294	294
事業収入	363,398	421,346	57,948
医療収入	31,017,431	34,168,097	3,150,666
雑収入	712,225	394,512	△317,713
帰属収入合計	43,722,955	47,337,557	3,614,602
基本金組入額	△2,190,994	△3,126,969	△935,975
消費収入合計	41,531,961	44,210,588	2,678,627
消費支出の部			
人件費	17,399,137	18,754,240	1,355,103
教育研究経費	3,041,109	3,333,490	292,381
医療経費	12,068,535	13,080,758	1,012,223
管理経費	7,672,291	8,245,916	573,625
借入金等利息	188,022	288,495	100,473
資産処分差額	606,325	80,910	△525,415
徴収不能引当金繰入額	20,904	7,898	△13,006
消費支出合計	40,996,323	43,791,707	2,795,384
消費収支差額	535,638	418,881	△116,757

（参考）

帰属収支差額	2,726,632	3,545,850	819,218

※帰属収支差額:帰属収入から消費支出を差し引いた金額。企業会計の当期損益に該当するもの。

貸借対照表

平成 25年 3月 31日　（単位:千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	78,729,982	76,511,256	2,218,726
有形固定資産	78,108,454	75,936,305	2,172,149
土地	32,603,048	32,612,437	△9,389
建物	34,685,535	34,523,768	161,767
構築物	1,179,056	1,234,304	△55,248
教育研究用機器備品	3,419,935	3,659,260	△239,325
その他の機器備品	5,310,247	3,036,657	2,273,590
図書	810,643	773,138	37,505
車輌	80,565	77,316	3,249
建設仮勘定	19,425	19,425	0
その他の固定資産	621,528	574,951	46,577
流動資産	24,516,180	21,553,037	2,963,143
現金預金	20,880,805	17,717,761	3,163,044
その他の流動資産	3,635,375	3,835,276	△199,901
資産の部合計	103,246,162	98,064,293	5,181,869
負債の部			
固定負債	26,213,547	26,272,318	△58,771
長期借入金	23,326,893	25,028,821	△1,701,928
その他の固定負債	2,886,654	1,243,497	1,643,157
流動負債	13,711,762	12,016,971	1,694,791
短期借入金	1,703,862	1,513,166	190,696
その他の流動負債	12,007,900	10,503,805	1,504,095
負債の部合計	39,925,309	38,289,289	1,636,020
基本金の部			
第1号基本金	69,433,826	66,481,856	2,951,970
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	2,973,000	2,798,000	175,000
基本金の部合計	72,406,826	69,279,856	3,126,970
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	9,085,973	9,504,852	△418,879
消費収支差額の部　合計	△9,085,973	△9,504,852	418,879
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部　合計	103,246,162	98,064,293	5,181,869

附属病院 国際医療福祉大学病院

桃井眞里子副学長が「子どもの発達」をテーマに講演

七月七日、本学の桃井眞里子副学長が当院主催の市民公開講座「子どもの発達セミナー」に登壇。脳科学と子どもの発達をテーマに講演した。本講座は、桃井副学長が当院で小児科の発達外来診療を開始したことを記念して開催したもの。

大田原市教育委員会委員長、那須塩原市教育委員会学校教育課長、那須町教育長等教育行政関係者をはじめ、行政・教育・保育関係の方、子ども連れのご家族など、三五〇名を超える来場者が熱心に聴講した。質疑応答では、教育現場や家庭での切実な質問に対し桃井副学長が真摯に回答し、大盛況のうちに閉会となった。

●講演する桃井副学長

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を使った手術を二例実施

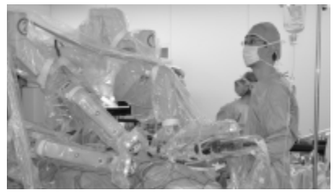
当院では六月、最新型の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を使った手術を、腎泌尿器外科および消化器外科でそれぞれ実施した。

今年三月の導入以来、腎泌尿器外科では、医師・看護師・臨床工学技士・麻酔科医を含めた「ダ・ヴィンチチーム」を組織し、前立腺がんに対する内視鏡手術に向けて研修を行うなど、万全な準備を進めてきた。そして、六月二七日、「ダ・ヴィンチSi」を使った栃木県内初の前立腺摘除術を実施。患者様は七〇歳代の男性で、手術は滞りなく終了した。術後の経過も順調で、術後約一週間で退院された。

また、消化器外科でも同二九日、関東甲信越で初となる胃がんに対する手術（胃の幽門側切除術）を実施した。五〇歳代の男性で、約九時間に及ぶ大手術だったが無事終了し、やはり術後約一週間で退院された。

ダ・ヴィンチを用いた「ロボット支援前立腺摘除術」は、昨年四月より前立腺がんに対して保険適用が認められ、今後増加が見込まれる。当院では今後、自費診療となる消化器外科領域においてもこうした先進技術を導入することにより、難度の高い手術や身体に負担の少ない低侵襲治療を実践し、患者様の早期社会復帰を支援していく。

（総務企画課）


●腎泌尿器外科の手術風景

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院

坂主リツ氏「平成二五年度栃木県各種功労者」表彰

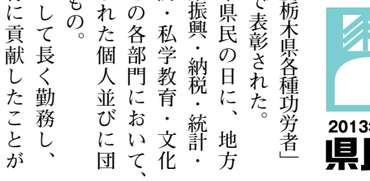
六月一五日の「栃木県民の日」に、当院の看護部長・顧問として勤務されていた坂主リツ氏が、「平成二五年度栃木県各種功労者」として保健衛生部門で表彰された。

この表彰は、毎年県民の日に、地方自治・社会福祉・産業振興・納税・統計・保健衛生・消防水防・私学教育・文化振興・交通安全などの各部門において、顕著な功績を挙げられた個人並びに団体を知事が表彰するもの。

坂主氏は看護師として長く勤務し、地域医療や看護教育に貢献したことが評価され、保健衛生部門にて表彰された。

今年は、四六名の個人と六つの団体が表彰され、その中で保健衛生部門での表彰は五名であった。

坂主リツ
国立栃木病院、栃木県厚生連塩谷病院看護部長、同下都賀総合病院看護部長勤務の後、本学保健医療学部看護学科教授に就任。本学塩谷病院看護部長、本学・関連医療福祉機関（栃木地区）総看護部長、本学塩谷病院看護部顧問を歴任。



高齢者総合診療科を新設

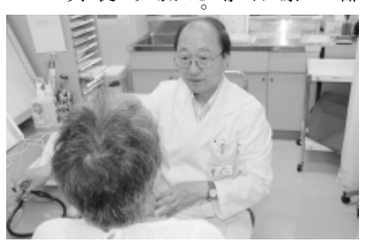
今年四月に東京医科大学老年病科主任教授の岩本俊彦先生がご着任されたことに伴い、塩谷病院に新たに「高齢者総合診療科」を開設した。

この診療科は、老化に伴い複数の疾患を持つ高齢者を総合的に診察し、治療だけでなく日常の健康指導も行うものだ。

診療科を臓器別に縦割りにしていた従来の形とは異なり総合的に診療を行うため、いくつかの診療科にわたって受診していた方の通院負担の軽減や、重複して薬が処方されることが防げると見込まれている。また、超高齢社会の中、独居の方や老老介護の状態の方が増えているが、生活面の指導も行うことにより、自立した日常生活を支援できるとも考えている。

塩谷病院のある地域は高齢化率が高いことから、今後、認知症などに加え加齢により治療を諦めていた患者様やそのご家族の受診や、医療機関からの患者様の紹介がさらに増えると見込んでいる。

（総務課）


●外来診察中の岩本教授

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

長村教授が Kazumasa Masubuchi Award 受賞、次期理事長にも選出

第一八回国際細胞学会学術総会（ICC）が、去る五月二六日から三〇日までフランスのパリで開催された。

その会期中に、当院・病理診断センター長の長村義之教授が「Kazumasa Masubuchi Life-time Achievement in Clinical Cytology Award」を受賞した。

日本で細胞診断学を発展させた増淵一正博士にちなんだ同賞は、細胞診断において国際的な業績を評価された人物に授与される賞で、長村教授は日本人として初の受賞となる。

長村教授は、「これまで四〇年あまりの間、新しい技術を導入しながらいろいろとチャレンジしてきましたが、国際的な評価をいただくことができ、大変光栄です。これを糧にさらに研鑽を積み、後進の指導にあたりたいと考えています」と喜びの言葉を述べた。

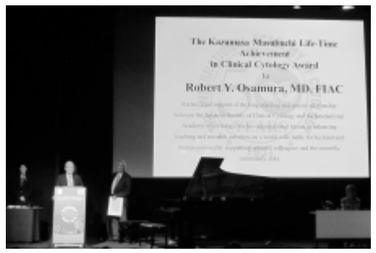
また、これに先立って開かれたICC幹部理事会において評議員メンバー全員による信任投票が行われた結果、長村教授が全会一致で次期理事長に選出された。

任期は二〇一六年から二〇一九年までの三年間。二〇一六年には横浜において国際細胞学会が開催される予定だ。

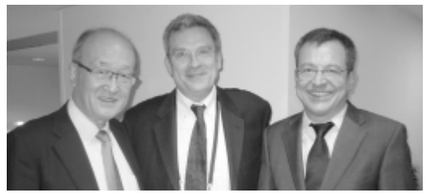
IAC（国際細胞学会）は、世界に多くの細胞病理医、細胞検査士を擁する巨大な団体。長村教授は、「組織細胞像がデジタル化され、今後、国際細胞学会のあり方も急速に変化していくことが予測されます。細胞診断分野での国際的リーダーであるわが国の立場を踏まえ、細胞診断の国際的レベルでの発展に大いに尽力したいと思っています」と意気込みを述べた。

（総務企画課）

●Kazumasa Masubuchi Awardの記念メダル



●受賞式で講演する長村教授

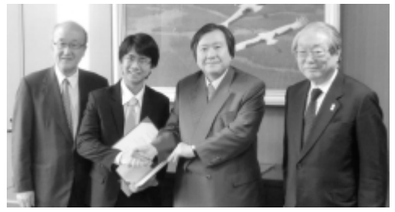

●左から長村教授、ヴィエルICCパリ大会会長、シュミットIAC事務局長

チョーライ病院の病理医が短期研修を終え帰国

本学と永年交流し、友好関係を築いているチョーライ病院（ベトナム・ホーチミン市）の病理医 Dr.Pham Quang Thongが高木邦格理事長の招聘による三田病院・病理診断センターでの三カ月の研修を終え、帰国された。Dr.Pham Quang Thongは、本国では将来を大いに期待されている。三田病院では、日常の病理診断を習得すると同時に、分子病理（がんの遺伝子診断）およびデジタルパソロジー（DP）など新しい病理診断を身につけ、一編の症例報告を英文でまとめ投稿し受理された。

今回の招聘を受け当院・病理診断センター長の長村義之教授は「三か月という短い期間であったが、Dr.Pham Quang Thongが病理診断における多くの最新知見を身につけられたことは、大変嬉しく感じられた。これを機会に国際医療福祉大学としても、さらに友好関係を深めていければ幸いと考える。ご支援くださった皆様、ありがとうございました」

（総務企画課）


●高木理事長と握手するトン医師。右は佐藤禎一学事顧問、左は長村義之教授

渡邊剛教授による「少年・少女医学講座」を開催

七月二五日、小学五年生から中学三年生を対象とした「第一一回 Team Watanabe Tokyo こども医学教室」を、一一階の三田ホールで開催した。将来の医学の発展を担う若い世代に最先端の医療の現場を見て興味を持ってもらい、次代の医師を育てるきっかけとなることを目的とするもので、昨年に引き続き当院で開催した。

六階の手術室と三田ホールを回線でつなぎ、金沢大学心肺・総合外科教授でもある渡邊剛教授執刀の心臓腫瘍摘出術と冠動脈バイパス術を生中継し、執刀中の渡邊教授や牛島輝明教授と質疑応答をしたほか、金沢大学心肺・総合外科の石川紀彦医師による「ロボット(da Vinci)手術について」、同大学の小田誠医師による「肺（呼吸器）手術について」の講演も行った。さらに、豚の心臓や肺の解剖や縫合の体験、実際に手術で使用する電気メスの体験コーナーも設けられた。

参加した四七名は積極的に質問を投げかけ、体験コーナーにも興味深く取り組んでいた。最後に修了証が授与された。

（総務企画課）

●講義に熱心に聴き入る子どもたち

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

熱海保健所と共催でウイルス性肝炎医療相談・交流会を開催

六月二九日、当院大会議室において、熱海保健所との共催による「ウイルス性肝炎医療相談・交流会」が開催された。B型肝炎またはC型肝炎治療中の患者様およびご家族を対象に、約二時間、医学講演と医療相談・交流会が行われた。

医学講演は、順天堂大学医学部附属静岡病院副院長の市田隆文教授(消化器内科)から「B型肝炎・C型肝炎の治療と生活」と題して、B型肝炎とC型肝炎の治療方法やワクチンの違い、対策や歴史について講演が行われた。

医療相談・交流会は、熱海保健所の三間屋純一所長、市田教授、当院の寺岡慧病院長、伊豆肝友会の古瀬秀樹会長がパネリストとして、患者様側から直接質問などを受ける形式で、活発な意見交換が行われた。

参加者から「肝炎患者にとって、患者側に寄り添った本日のようなイベントを今後も継続してもらいたい」など、好意的な意見を多数いただいた。

●ご挨拶をする寺岡病院長

第二回 健康講座

七月一〇日、当院大会議室にて、平成二五年度第二回健康講座を開催した。猛暑日が続く中にもかかわらず、約一〇〇名の方々にご参加いただき、皮膚科の佐々木哲雄教授が「老化と皮膚～皮膚老化の予防と治療～」をテーマに講演を行った。

日ごろの紫外線対策や日焼け止めの方法などのすぐに役立つ身近な内容から、老化や紫外線の影響によって起こる皮膚疾患についてなど、内容は幅広く、参加者も熱心に聞き入っていた。

講演後には、上席副院長・皮膚科の池澤善郎教授が司会を務め質疑応答が行われた。事前申し込み段階から問い合わせが非常に多く、関心の高いテーマであると実感した。

今後も地域の皆様のニーズに合わせた健康講座を開催できるよう、熱海病院スタッフ一同、より一層努力していく。

(総務課　中原正実)

●佐々木教授の講演の後、池澤上席副院長司会のもと、質疑応答が行われた

臨床医学研究センター(千葉地区)

化学療法研究所附属病院

新東棟開設 祝賀会・内覧会を開催

六月八～九日の二日間にわたり、新東棟の内覧会が開催され、同時に、八日には開設記念祝賀会が執り行われた。

今回建て替えられた新東棟には、従来の療養病棟(四四床)、結核病棟(四五床)が配置され、加えて、回復期リハビリテーション病棟(三四床)が新たに開設された。

八日に行われた祝賀会には、千葉県を代表して鈴木健彦健康福祉部保健医療担当部長をはじめ、大久保博市川市長や吉岡英征市川市医師会長らを来賓に迎えご祝辞をいただいたほか、総勢二一名による鏡開きが行われた。会場となったリハビリテーション室は大学医局、医療機関、地元の方々など約二〇〇名の方に埋め尽くされ、盛況のうちにお開きとなった。

祝賀会に先立ち内覧会場に足を運ばれた方も多く、今回新しくなった結核病棟は、最新の院内感染対策システムである陰陽圧空調管理のほか、多剤耐性菌や透析患者様にも対応できる病室を有しており、県や保健所など行政関係や医療機関の方々が興味深く見学されていた。

また、九日は朝早くから近隣住民を中心に約四五〇名が内覧会に参加され、当地域における医療への関心の高さが伺えた。特に、新規開設となった回復期リハビリテーション病棟では、急性期医療を終えた方に対して理学療法士や作業療法士らによって集中的にリハビリテーションを行うという説明を熱心に聞き入る姿が見受けられた。急性期から回復期へ、リハビリテーションを中心に連携することにより、化研病院の提供する医療が、チーム医療の実践としてますます充実したことを印象づける良い機会となったようだ。

今後は秋に向けて、地域のニーズに応えるために、旧療養病棟を改修し予防医学センターとして健診部門を充実させていく方針で、人間ドック・検診は専用フロアにて、より多くの方にご利用いただけるようになる。さらに従来の外来診療部門の拡充も図り、病院全体として充実した医療の提供をめざしていく予定である。

(総務人事課)

●祝賀会には、多くの来賓をお迎えした

臨床医学研究センター(福岡地区)

高木病院

G棟起工式を挙行

七月三日、高木病院の新棟となるG棟の起工式が、同日起工のグループ宿泊施設(仮称：文化交流ドミトリー)と併せて執り行われた。

式には、鳩山二郎次期大川市長(七月三日時点)をはじめ市議会関係者、大川商工会各団体、地元女性団体などから数多くの方が参加した。

新棟には八室の手術室を設け、グループでは六月に初めて国際医療福祉大学病院に導入した手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を設置。また救急外来、ICU・HCUなど急性期医療に対する設備を整えるほか、リハビリテーション部門の拡充を行い、平成二六年秋に竣工予定。これに伴い既存棟においても、緩和ケア病棟やNICUの設置を予定している。

施主挨拶で高木邦格理事長は「地元大川市の医療の充実に貢献できるよう、より一層努力して参りたい」と述べ、感謝の意を表した。

(九州広報室　中川麻衣子)

●神主に玉串を手渡す高木理事長

●神事が厳かに執り行われた

臨床医学研究センター(栃木地区)

特別養護老人ホーム 栃の実荘

新施設長のご挨拶

七月一日より、新たに栃の実荘に原修一施設長が着任された。原施設長は、平成六年の栃の実荘開設以来、生活相談員として勤務されてきた。新規着任のご挨拶をご紹介する。

「一八年間栃の実荘とともに歩み、この度、施設長を拝命し、その責任の重大さを痛感しております。

私は大学卒業後二七年間、福祉の現場で多くの利用者の方々と接し、さまざまなことを体験し学びました。常に念頭に置いていることは、利用者の方々の人権と主体性を尊重し、安心・安全で快適に暮らしていただくことです。『当り前のことを当り前に実践する』をモットーに、職員とともに、これまで以上に利用者様・ご家族・地域との信頼を築きあげます。

国際医療福祉大学をはじめ、隣接する国際医療福祉大学病院、マロニエ苑等の関連施設との連携を一層深め、医療、保健、福祉の機能を高め、地域の方々に貢献できるよう努めてまいります」

●新たに着任した原修一施設長

臨床医学研究センター(東京地区)

山王病院

新棟の起工式

関東地方が梅雨明けした七月六日、当院の隣接地で新棟工事期間中の安全を祈願する神事が厳かに執り行われた。高木邦格理事長、堤治病院長ら関係者や来賓など総勢七四名が出席した。来賓の方から数々のご祝辞を賜り、当院に対する期待の高さが伺えた。

新棟は、既存棟と連絡通路でつながる地上五階、地下二階建てで、二〇一五年一月の竣工予定。一九床の産科クリニックを併設し、産科・リプロダクションセンターの機能拡充のためNICUを新設する。また、手術室を二部屋増設し、低侵襲手術センターとICUを新設、リハビリテーション室の移設拡充計画のほか、既存棟も検査室の移設拡充や内視鏡室の拡張などを予定している。

高度な医療を基軸に、充実したアメニティと患者様本位の温かなサービスをご提供し皆様に信頼してご利用いただけるよう、今後も医療体制を充実させていく。

●来賓、関係者にご挨拶する高木理事長

●新棟の完成予想図

「不妊セミナー」開催報告

七月一三日、堤治病院長、藤原敏博リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター長、猪鼻達仁培養士、北村純子看護師(不妊カウンセラー)を講師とする「不妊セミナー」を開催した。

当院の大きな特徴である体外受精胚移植などの生殖補助医療と婦人科内視鏡下手術(腹腔鏡・子宮鏡)とを組み合わせた不妊治療について、画像を駆使した説明に参加者は熱心に耳を傾けていた。

また、「ストレスは最小限に、治療効果は最大に」をモットーとした診療方針や、不妊カウンセラーによる精神面でのケアに定評があることも強く関心を引いたようで、セミナー終了後、早速受診予約をする方もいらっしゃった。

妊娠に関する検査や診療へのニーズが高まる中、開設以来、不妊で悩む多くの方々を手助けしてきた当院への注目度は高い。今後も患者様の期待に応え、専門性に基づく高度な医療をご提供していく。

(総務課)

●堤病院長の説明を熱心に聞く参加者

今回は、本学大学院修了生で、現在、筑波大学附属病院病院総務部医事課長として活躍されている坂本泰敏さんからご紹介いただき、同じ職場の本学卒業生、川島里美さんにご投稿いただきました。今後も本学の卒業生・修了生の皆さんからの情報をお待ちしております。

コミュニケーション能力の大切さを実感しています

■筑波大学附属病院　病院総務部医事課
総合がん診療センター　川島里美

私は昨年、医療経営管理学科（現、医療福祉・マネジメント学科）を卒業し、現在、**診療情報管理士**として、筑波大学附属病院病院総務部医事課「総合がん診療センター」に所属しています。

診療情報管理士をめざしたきっかけは、院内データの統計を作成し、分析、現場にフィードバックすることで、病院経営にも役立てる職業だと知ったからです。それまで私の中では、病院といえば医師や看護師など医療に直接携わる人たちが中心でしたが、それだけではなく、病院を経営面から支えていく診療情報管理士の仕事に魅力を感じました。

入職して一年が過ぎました。現在は院内がん登録とNCD入力の補助を行っています。経営とは直接関係はありませんが、データ分析するうえで質の向上に努めています。がん登録は奥が深く、私の知識不足により迷うことも多々ありますが、そのたびにみなさんが指導してくださり感謝しています。幅広い医学知識や専門用語の理解ができるように日々勉強。そのために、講習会やセミナーに積極的に参加しています。

また、入職して改めて感じたことは、コミュニケーション能力の大切さです。職場での雰囲気づくりや医師、患者様と接することはとても重要なことです。さらに、言葉だけでなく、「笑顔」によって、患者様には少しでも和んでもらいたいと思っています。

これからの目標は、院内がん登録実務中級を取得し、さらに理解を深め、スキルアップしていくことです。

筑波大学附属病院は、病歴室、DPC、総合がん診療センター、医療情報部などさまざまな場所で診療情報管理士が活躍しています。その特色を生かし、診療情報管理士同士が情報を共有し、互いを理解することで、さらに連携が深まります。

最後にこのような機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

本学卒業生・修了生のみなさん
左から●坂入玲子さん（H18年度卒業）●土屋美幸さん（H23年度卒業）
●坂本泰敏さん（H18年度博士課程単位取得）
●川島里美さん（H23年度卒業）●大塚由貴さん（H19年度卒業）

「診療情報管理士」になるには

「診療情報管理士」とは、患者さんの治療内容や病状、検査記録等が書かれた診療記録（カルテ）の処理と管理を専門に行う医療事務の専門職であり、**病院の安全管理や経営を行ううえで欠かせない存在**です。

本学で「診療情報管理士」を養成するのは医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科です。「診療情報管理士」になるには、日本病院会が指定する本学科のような認定校で定期間学んだ後、毎年一回実施される認定試験（公的資格）に合格する必要があります。本学では、この認定試験は三年次終了時から受験することができます。このため、四年次までに一回受験することができます。

本年三月の本学の合格率は、八七・五％で、全国合格率四三・七％のほぼ二倍でした。また、本学の合格者数は四三人で、全国認定校中で、四年連続日本一です。さらに、本年三月卒業生の資格取得率（四年次終了時までに合格した者の割合）は、実に九三・三％にのぼり、多くの卒業生が「診療情報管理士」として本学を巣立っていきました。

今回、病院からレポートしていただいた川島里美さんや同じ職場の方々のように、病院を経営面から支えていきたいという夢を持っている方、まわりにそうした方がいらっしゃる方は、ぜひ参考にしてください。

留学生通信

今号では去る三月一四日に看護学科を卒業したリ・ケンさんを紹介します。

リ・ケンさん（中国）　看護学科

●国家試験に見事合格し、現在日本で看護師として活躍中です!

兵馬俑で有名な西安市の出身です。この四年間はあっという間に過ぎました。留学生にとって、医療の専門分野を勉強するのはやさしいことではありません。初めは勉強を続けられるか少し自信がありませんでした。でも、学科の先生方の励ましに背中を押され、自信を持って勉強をすることができるようになりました。

在校生や四月から新たに本学に入学された留学生のみなさん、本学の勉強はとても大変ですが、頑張れば必ず目標を達成することができると思います。先生方は留学生だからといって甘やかしてはくれません。でも、真剣に勉強する学生に対しては出身地に関係なく親身になってサポートしてくださいます。ぜひ、この大学で夢をかなえてください。

現在は、日本の病院で看護師として働いています。本学で学んだことを誇りに頑張っていきます。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

2014年度 入学生募集
学内推薦入試制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。

③同時双方向遠隔授業　複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●ナースプラクティショナー養成分野
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野

医療福祉経営専攻
●医療福祉経営学分野
●診療情報管理・分析学分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉連携学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野
●医療福祉経営学分野
●診療情報管理・分析学分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉連携学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野
●医療福祉心理学分野

薬学研究科
博士課程（4年制）
医療・生命薬学専攻

薬科学研究科
修士課程
生命薬科学専攻
●生命薬学分野
●医療薬学分野

TOPICS
9月23日（月・祝）東京青山キャンパスで大学院進学説明会を開催します

9月23日（月・祝）14時より東京青山キャンパス5Fホールで大学院全体の進学説明会（オープンキャンパス）を開催します。
内容は①ビデオ上映による大学院の紹介②大学院を代表する教授陣と本学修了生による座談会③各分野の個別ブースでの進学相談会の3つです。大学院への進学を具体的に考えられている方はもちろん、大学院に興味をお持ちの方は気軽にご参加ください。

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com　好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
第47回日本理学療法士協会全国学術研修大会(鹿児島)

●作業療法分野
作業療法フォーラム2012、第51回作業療法全国研修会(岩手)

●言語聴覚分野
摂食・嚥下リハビリテーションの実際

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護2012

●医療・福祉・経営実務
経営者のための医療政策の潮流講座

●厚生労働省情報
障害者の範囲への難病等の追加に係る自治体担当者会議(2月12日開催) ※無料配信

●乃木坂スクール
遺伝子診断、治療とその問題点

●受験講座
ケアマネジャー受験講座2013

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール　info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト　「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講座、トップクラス講義、関連職種連携論、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 94 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4　☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2013　Printed in Japan　禁無断転載・複写

学生投稿ページ
14

新生活、新発見

今回は1年生が登場。ひとり暮らしを始めると気がつくことがいろいろ。
意外なことが初めてだったり、とまどったり、
さらには、自分の意外な面を発見したり。新生活ならではの
“今さらながら” 新発見をレポートします。

毎日の食事を作ることの大変さ

大津愛美さん
（茨城県立水戸第三高校出身）
医療福祉・マネジメント学科1年

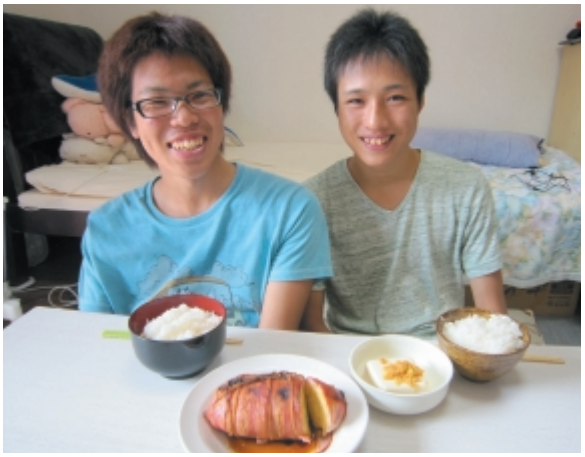
写真左

毎日バランスのとれた食事を作ることの大変さを改めて実感し、親の毎日の苦労が少しわかった気がします。また、何回分かの料理をイメージしておかないと、買った野菜を使い切ることが意外に難しいことも知りました。家事に勉強にとても忙しいと思うこともありますが、すぐ近くに友だちや先輩がいるので、安心して過ごしています。

渡邉友佳さん（栃木県立那須拓陽高校出身）・右
医療福祉・マネジメント学科1年

今日は鮭とほうれん草のパスタを作りました。
牛乳、とろけるチーズも使っています。
家に帰って食べたいのは、
母が作る春巻きです。

自分ですることの多さ



山浦翼さん
（福島県立安達高校出身）
医療福祉・マネジメント学科1年

写真左

料理が好きなので、食べたいものや作りたい物を作って楽しんでいます。でも、掃除（特に浴室の角のカビ）、洗濯、ゴミ出しは慣れるまで大変でした。これまでやってくれていた親のありがたみがわかります。それと、最初は光熱費の料金を見ても、普通なのか使い過ぎなのかがわかりませんでした。これからも新しいジャンルの料理に挑戦したいです。

菊池祐伎さん（栃木県立矢板東高校出身）・右
医療福祉・マネジメント学科1年

「なんちゃってローストポーク」。
外はベーコン、中はマッシュポテト。
家に帰って食べたいのは、父の野菜炒め、
母のニラと卵の味噌汁です。

自分でする買い物と食事の工夫

大越春奈さん
（茨城県 常磐大学高校出身）
作業療法学科1年

写真中央

ひとり暮らしをして気づいたことは、料理の大変さです。毎朝、早く起きてお弁当を作ったり、夕飯のメニューを考えて買い出しに行ったりと、栄養のバランスを考えながらの料理は思っていた以上に大変だと実感しています。スーパーでカゴを押しながら、自分で決めて買い物をしていく感覚も、ひとり暮らしをして初めて味わいました。

堀川柚葉さん（福島県立富岡高校出身）・左　金田苑香さん（東京都 十文字高校出身）・右　いずれも作業療法学科1年

ハンバーグの他に、かぼちゃの煮つけと
いつものお弁当を作りました。
家に帰って食べたいのは、
母のいもがら入りの豚汁です。

「新生活、新発見」がテーマの今回、奇しくも３人とも「食事」を取り上げています。自分の力での生活が始まると、まずは食事のペースをどう作っていくかが最大のテーマになります。そして、これまで黙って家事をしてくれていた親のありがたさに気がつきました。